

# 喜びを富士に告げよう！

後期学校評価特集号  
富士市立吉原北中学校  
令和5年2月

## 令和4年度 後期学校評価アンケート結果

今年度、本校の重点目標を「最後まで 共に チャレンジ」として、教育活動を行ってきました。ご協力いただいた後期学校評価アンケート（生徒・保護者対象）から、生徒の姿を基に、今年度の取り組みの結果を報告させていただきます。

### 特徴① 評価が高かった項目について

#### (1) 生活面・行動面

- 楽しく、充実した学校生活を送ることができている。(R4 95.7%)
- 先生や来校されたお客様に自分からあいさつをしている。(R4 92.7%)
- 何事もあきらめずに粘り強く取り組んでいる。(R4 89.7%)
- 自分にはよいところや頑張っていることがある。(R4 89.3%)
- 学級の中で、仲間と安心して過ごしている。(R4 94.3%)
- 進んで仕事を行うことができている。(R4 94.3%)
- 委員会や係の仕事にやりがいを感じている。(R4 92.3%)
- 学校には、悩みをもったときに相談できる先生がいる。(R4 84.3%)

#### (2) 学習面

- 授業が分かり、自分で課題に取り組むことができている。(R4 90.3%)
- 授業中、自分や仲間の分からないところをそのままにせず、積極的に教えてもらったり教えたりしている。(R4 89.0%)
- 授業中、仲間の思いや考えを受け止め、比較し練り合わせることで、自分の考えを広めたり深めたりしている。(R4 91.0%)
- 授業中、「わかった」「できた」「学習したことを生かすことができた」という実感をもっている。(R4 92.0%)
- 授業中、自分の考えや思いをもち、仲間に伝えようとしている。(R4 85.3%)

#### 【分析・考察】

今年度を振り返ってみると、ウィズコロナの新たな生活様式が定着したことで、生徒会活動や学校行事において、生徒が主体となって活動する場面が増え、学校が本来の活気を取り戻し始めた1年となりました。アンケート結果からも、「最後まで 共に チャレンジ」する生徒の姿が表われています。また、前期の学校評価で課題とした「学校には、悩みをもったときに相談できる先生がいる」の数値についても、前年度比+12%と改善が見られました。このことは、学校が誰にとっても安心して自分の思い表現することができる場へと変わってきたと考えます。その背景には、校則の変更について、生徒会が中心となって生徒の声を反映させたり、開催できずにいた運動会を実行委員による企画と運営によって実施したりしたと、今年度ならではの活動がありました。これまで表に出せなかった生徒の思いを引き出し、形にしていく活動の過程において、生徒と教職員とのコミュニケーションは不可欠でした。顔を合わせてざっくばらんに話をしたり、アンケートによって生徒の思いを広く収集したりと、すべての生徒の声に耳を傾けようと、学校全体でコロナ禍における新しい生活様式を模索してきた結果が実を結んだのではないかと考えます。

### 特徴② 今後の課題について

- △自分は学校や学級の仲間にとって必要な存在だと感じている。(R4 76%/R3 66%)
- △ICT 機器を授業で活用している。(R4 61%/R3 96%)
- △部活動がある日は 90 分以上、部活動がない日は 2 時間以上、家庭での学習に取り組んでいる。(R4 63%/R3 54%)

## 【分析・考察】

今年度は、生徒会活動や学校行事などの活動が活発に行われたことで、より多くの生徒にチャレンジする場を設定することができました。「がんばることができた」「やりきった」などの振り返りの言葉からは、やりがいや成長を感じており、自尊感情が高まってきたことがうかがえます。しかし、「自分は学校や学級の仲間にとって必要な存在だと感じている」の質問に対し、4人に一人の生徒が肯定的に答えることができませんでした。数値は改善傾向にあります。しかし、「自分は誰かの役に立てている」「必要とされている」など、互いの存在を認め合うことができる集団づくりに取り組んでいきます。

また、この結果から、「周りから自分はどのように思われているのか」と周囲の目を気にするあまり、自信をもって学校生活を送ることができない生徒もいます。それは、自分から発言したり、行動したりすることができないでいる生徒の姿が少なくないことからわかります。教師やリーダーから指示されたことに一生懸命になれても、自ら考え判断し、行動することには至らないのです。学校では、外部から講師を招いて、困っていることを発信したり、仲間とのより良いコミュニケーションづくりについて学んだり、生涯にわたって必要とされる力の育成のために講話を実施してきました。すぐに効果が期待できるものではないかもしれませんが、今後も継続して、生徒が学ぶことができる場を設定していきます。

ICT機器の活用については、生徒自身の活用が促進されるような授業づくりを目指していきます。今年度は、生徒会活動や学級活動、学校行事の中で、生徒がアンケートやリモート機能を活用して、人とつながる活動を行いました。これまでの準備にかけていた時間が短縮され、1人1台タブレットパソコンを保有するメリットを理解していました。今後は、学校だけでなく、家庭においても学習のツールとして有効活用することができるのではないのでしょうか。

家庭での学習については、ICTを活用することで、自分に合った学び方を選択することができます。これまでの教科書や問題集に加えて、AIドリルに取り組むことは、苦手教科の克服の一助となると考えます。家庭で学んだ（知識・技能を身に付けた）ことを、学校での授業に生かす（思考力・判断力・表現力を働かせる）ことによって、理解は深まり定着していきます。基礎・基本の学習に丁寧に取り組んでほしいと考えます。

この他にも、学校の教育活動についてご意見をいただきました。

学校からのお便りについては、配付が遅くならないよう改善していきます。ホームページへの掲載を基本とし、マチコミを活用することで、家庭に届くまでの時間を短縮できると思います。また校則（生活の心得）については、見直しをしたことにより生活はどのようになったのかを生徒と共に見極めながら、より良い生活を目指していきます。部活動の活動時間については、まとまった時間が確保できるようなめりはりのある日課・年間計画を考えていきます。お弁当の日については、富士市において、給食の年間回数が定められているため、行事予定を考慮しながら設定していきます。来年度の始めには予定を配付しますので、ご協力をお願いします。

3年生の卒業まで1か月余りです。入学当時から学校生活に制限があり、思うような中学校生活を送ることができなかつたかもしれません。それでも、今年度3年生が後輩に語り、見せてくれた姿はとても立派でした。「コロナで何もできない」ではなく、これまでの前例にとらわれずに「新しい発想で何でもできる」一年だったのかもしれません。「最後まで共にチャレンジ」し続けた3年生の姿を見てきた後輩が、「来年は、もっと良いものを創っていこう」と期待に胸を膨らませてくれることを願っています。

生徒や保護者の皆さまからいただいた声を真摯に受け止め、次年度の準備を進めていきます。頼れる学校、信頼できる教員集団となるよう今後も取り組んでいきます。ご理解・ご協力をよろしくお願いたします。

※ アンケート結果の詳細は裏面をご覧ください。